



ZENFUREN

2013年10月4・5日

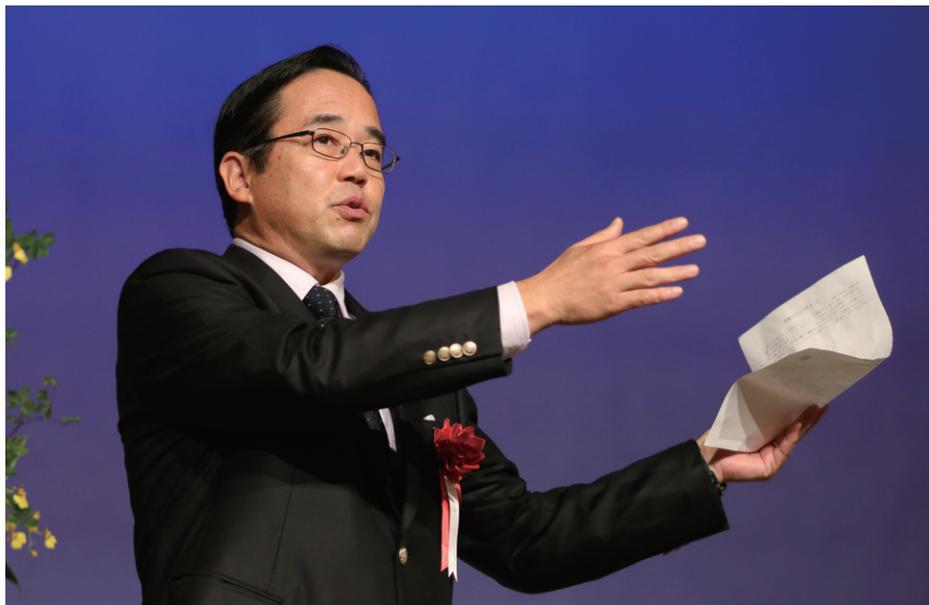
号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

全附P連PTA研修会 第4回全国大会

基調講演-1

基調講演1では、「親だからできること」を演題に、メシが食える大人への成長過程では「母の笑顔が一番大切」ということを導き出した、花まるグループ代表の高濱正伸先生が、会場内を笑顔と感動でいっぱいにした、素晴らしいお話をしてくださいました。



講師の楽しいお話により、爆笑と笑顔に包まれた会場。事例をたくさん挙げながら、子育てに役立ちそうなたくさんのヒントを得ることができ、保護者も大満足の講演会となりました。

今大会は「共に生きる。おとなも子どもも学校も」～個性を見だし、新たな附属の力へ～というスローガンのもと開催されました。その中の基調講演で、花まる学習会の高濱正伸先生をお招きし「親だからできること」という演題でお話をお聞きすることができました。

今の教育制度では「将来メシが食えなくなる大人が量産される」という、危機感のあるメッセージから始まったこの講演は、これまでの私たちの子育てを振り返り、そしてこれからの子育て、教育に役立て「メシが食える人」「魅力的な大人」を育てるためのメッセージがたくさんちりばめられていました。

主に家庭において母親・父親はどういう存在であるべきか？ということを中心に、数え切れないほどのご家庭を見てきた高濱先生が、様々な事例を挙げながら楽しくお話してくださいました。

子どもの成長を時間軸で考えた場合に、食べない・寝ない・周りの子が塾に通い始めたなど、目の前で起きている「今」だけにとらわれるのではなく、3歳から10歳くらいまでの「幼児期」、11歳から18歳くらいまでの「思春期」という、2つの長い時期に分けて考えることが大事であるということでした。幼少期から思春期に切り替わるタイミングで、母親と娘の関係性、母親と息子の関係性はど



岩手大学教育学部附属小学校 PTA
副会長 田口智之 取材

う変わっていくべきか、ということについても、男と女は全く別な生き物であるということを中心に、とても興味深く聞くことが出来ました。

幼少期に親の価値観を子どもに押しつけ、しかってばかりいることは、自立心を育てるためには決して子どものためにはならない。学校は学歴の為ではない。勉強を教わり優等生を育てるのではなく、学校生活の中で起こる様々なトラブルを経験し、自ら解決する力を身につけることで、自立心・コミュニケーション能力が養われ、人を幸せにすることの出来る大人が出来上がるのである。また情報過多で近所との人間関係が希薄である現在の時代背景や、夫婦のコミュニケーション不足が、子育てに一生懸命な母親を孤独にしていることにも問題があるということでした。

「花まる（ニコニコ）ママでいること」これが健やかな子どもが育つために一番大切なことである。そのためには、父親が一家の「長」としての存在感を示し、子どもが常に目の当たりにする夫婦関係を良好に保つことが大事である。

父親は母親がいつもニコニコしているためには、どうしたら良いのかを考えることが仕事であるということでした。

父親として私なりに子育てに関わってきたつもりが、子どものことばかりに注視し、24時間子育てに尽力してくれている家内のことまできちんと気を遣っていなかった自分を大いに反省し、夫婦関係を良くしていくことの大切さを痛感する良い機会となりました。今回のお話を参考に、これからの家族との関わり方を見直し「メシが食える人」「魅力的な大人」を育てることに力を尽くしていきたいと思いました。